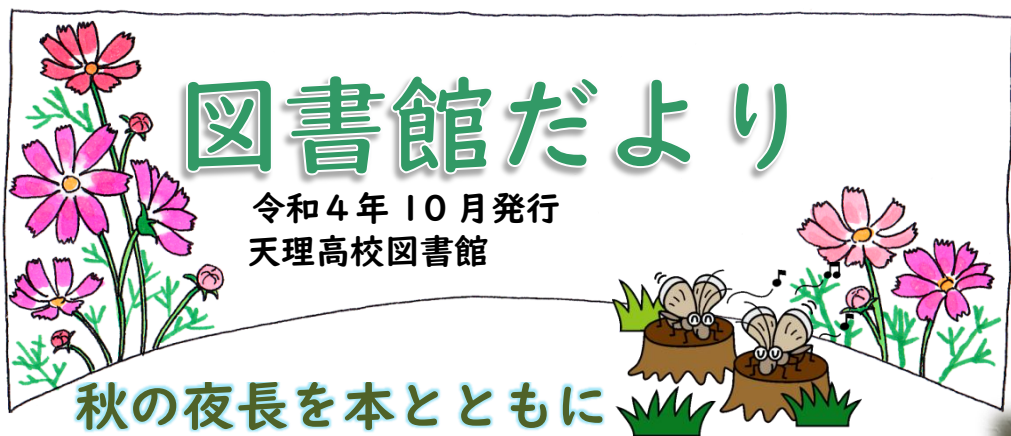




「秋の日はつるべおとし」。つるべというのは、井戸で水を汲むための綱をつけた桶などのこと。日が暮れるのがつるべを落とすように早く感じる秋は、夜が長いということでしょう。虫の声を聴きながら読書を楽しむのにぴったりです。

上半期貸出トップ10を発表！！

4月～9月末までのクラス別天高貸出冊数トップ10を発表します。

1位 2部4年3組 2位 2部1年3組 3位 2年0組

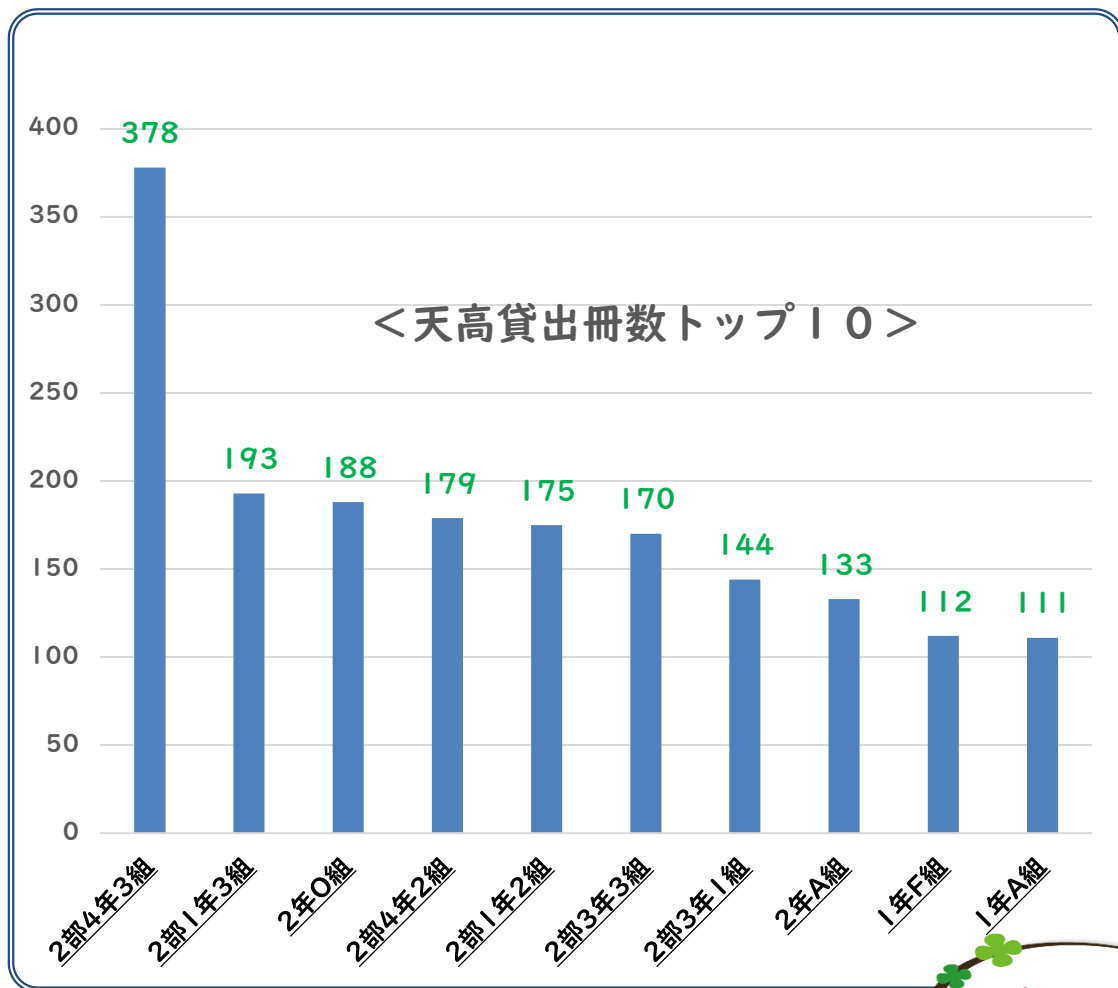
となりました。いつも図書館を利用して、ありがとうございます。（詳しくは、下記のグラフをみてください。）

貸出合計冊数は、3538冊でした。（昨年度は3940冊）

図書館は新しい情報を得るのに最適の場所ですし、一人で気持ちを落ち着ける場としても、とてもよい所だと思います。気になる事、知りたい事があれば、遠慮なくカウンターに尋ねてください。これからもどんどん図書館を利用してください。

先生方からのおすすめ本

今年度、天理高校に着任された先生方に「天高生におすすめしたい本」を紹介していただきました。どの本もとてもおもしろそうです。すべて、図書館にありますので、ぜひ一度手に取ってみてくださいね。



<天高ベスト貸出> (2022.4.～9)

天高ベスト貸出
第1位

順位	書名	著者名	出版者名	回数
1	余命一年と宣告された僕が、余命半年の君と出会った話	森田 碧	ポプラ社	10
2	また、同じ夢を見ていた	住野 よる	双葉社	9
3	かがみの孤城	辻村 深月	ポプラ社	8
3	わたしの幸せな結婚 [1]	顎木 あくみ	KADOKAWA	8
3	鬼の花嫁 2	クレハ	スターツ出版	8

先生方からのおすすめ本

『いつも晴天、うた心地—柏木庫治その人と信仰』

猪飼 聖紀 著 四海書房

東中央大教会の初代会長である柏木庫治先生を紹介した本です。36歳での入信後、単独布教を経て、東中央支教会（現在の分教会）を設立、その後、部内教会58カ所が設立され、入信から35年で大教会長となった方ですが、その方がどのような人生を歩まれたが書かれています。

たくさんの人が関わらないと多くの教会が生まれることはありません。「神様に頼るほどわしは弱くはない。ほっといてくれ」と思っていた人物が、考え方

を変えるきっかけとなったものは何だったのか、そしてその人物が多くの人々にどのようにお道の教えや信仰を伝えたのかがわかる本だと思います。

バケツに入った水を通して「水」の尊さを説かれた話や、「お供え」の話を読んで、私はそのような考え方ができるのかと思いました。また58カ所の部内教会の内、30カ所が2年の間に誕生していますが、その「勢い」のもととなった話にも興味深いと思います。お道の教えや信仰に対する考え方を広げたいと思っている人に、薦めたいです。（国語科 濱口先生）

『だけど有難い』 深谷 善太郎 著 道友社

本書は四編構成で一編に15ずつのお話があります。集録されているお話は、全て読む人の心を「本当の幸福（陽気ぐらし）」に導いてくれるお話です。読み終えた後は、「だけど有難い」という気持ちにさせてくれる本です。

一つ一つのお話が2～3ページ程の長さで、ちょっとずつ読めてちょっとずつ幸せな気持ちになります。身近な事柄を題材にしたお話ばかりでとてもわかりやすい本です。クラブ、勉強、その他でとても忙しい皆さんでも、ちょっとした合間の時間で読めます。一つ一つのお話が読む人の心を着実に「本当の幸せ（陽気ぐらし）」へと導いてくれます。（社会科 北村先生）

『101歳、人生っていいもんだ』

ジョージ・ドーンソン 著 忠平美幸 訳 飛鳥新社

だいぶ前に読んだ本ですが、とても印象に残っていて、忘れられない本です。98歳から文字の読み書きを勉強するために、学校に通う人のお話です。「学ぶ」ことに遅いということはないのだなあと感じます。ドーンソンさんの自伝なので、読んでいく中で、彼の人生から何か学べるところを見つけてください。（英語科 岡野先生）

『余命一年と宣告された僕が、余命半年の君と出会った話』

森田碧 著 ポプラ社

高校一年の冬、早坂秋人は心臓病を患い、余命宣告を受ける。絶望の中、秋人は通院先に入院している桜井春奈と出会う。春奈もまた、重い病気で残りわずかの命だった。秋人は自分の病気のことを隠して彼女と話すようになり、死ぬのが怖くないと言う春奈に興味を持つ。自分はまだ恋をしてもいいのだろうか？ 自問しながら過ぎる日々に変化が訪れて……？ 淡々と描かれるふたりの日常に、儚い美しさと優しさを感じる、究極の純愛小説。（Amazon「内容紹介」より）



<館内写真>

